

別添資料

京都大学臨界集合体実験装置(KUCA)高濃縮ウラン燃料の返還等について

I. これまでの経緯

- 京都大学原子炉実験所の高濃縮ウラン燃料は、京都大学研究用原子炉（KUR）の高濃縮ウラン燃料については、平成19年までに全ての使用済燃料を米国に返還し、平成22年5月から低濃縮ウラン燃料によりKURの運転（KURの低濃縮化）を行っています。
- 京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）の高濃縮ウラン燃料については、平成17年頃からKUCAの低濃縮化、平成20年頃から同燃料の返還に係る情報交換を米国エネルギー省と開始しました。
- 平成26年3月の第3回核セキュリティ・サミットにおいて、KUCAの低濃縮化等の実現可能性に係る調査の継続の報告がありました。
- 平成28年3月31日から4月1日に開催された第4回核セキュリティ・サミットにおいて、KUCAの高濃縮ウラン燃料の米国への返還と低濃縮化に関する日米合意が行われました。

II. 返還予定の高濃縮ウラン燃料等について

- 高濃縮ウラン燃料等の内訳について
 - KUCAで使用している高濃縮ウラン燃料
 - ⇒ 高濃縮ウランアルミ合金板状燃料
(Wet core 用燃料と Dry core 用燃料の2種類)
 - その他の高濃縮ウラン
 - ⇒ ウランアルミ合金スクラップ、ウランコンバーター
- 高濃縮ウラン燃料等の安全性について
 - 今回の返還対象である高濃縮ウラン燃料等は、運転や実験に伴って蓄積された放射性物質はごく微量であり、人が直接手で取り扱うことが可能な程度の放射線量です。また、ウランは被覆等で密封されており、飛散の恐れはありません。高濃縮ウラン燃料等の返還にあたっては、放射能や放射線に由来するリスクをさらに低減し、セキュリティ上の安全対策を万全とするために、法令に定められた様々な安全対策を施し、十分な安全性を確保します。